

栗駒山の火山活動解説資料（令和5年8月）

仙台管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図1～5）

大柳監視カメラ及び展望岩頭監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。昭和湖及びゼッタ沢上流周辺で地熱域は認められませんでした。

23日に実施した現地調査では、これまでと比較して、ゼッタ沢上流の地熱域の状況に特段の変化はみられず、昭和湖周辺では、これまでと同様に地熱域は認められませんでした。昨年まで見られていた昭和湖東岸での低温の噴気は認められませんでした。

・ 地震や微動の発生状況（図6）

火山性地震は少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

なお、栗駒山周辺では、「平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震」の余震域内で地震活動が続いています。

・ 地殻変動の状況（図7、図9）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図1 栗駒山 山頂周辺の状況（8月28日）

・ 大柳監視カメラ（山頂の南東約20km）の映像です。

噴気は認められませんでした。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

次回の火山活動解説資料（令和5年9月分）は令和5年10月10日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイトル）」を使用しています。

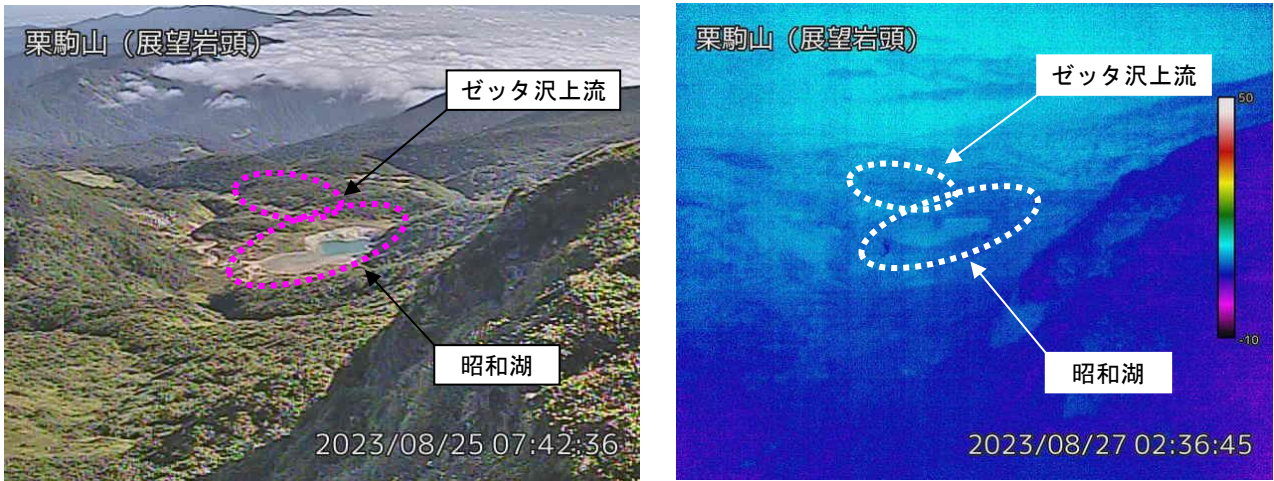


図2 栗駒山 昭和湖及びゼッタ沢上流周辺の状況（8月25日）と地表面温度分布（8月27日）
・展望岩頭監視カメラ（昭和湖の南南西約900m）の映像です。

噴気は認められませんでした。
また、昭和湖及びゼッタ沢上流周辺に地熱域は認められませんでした。

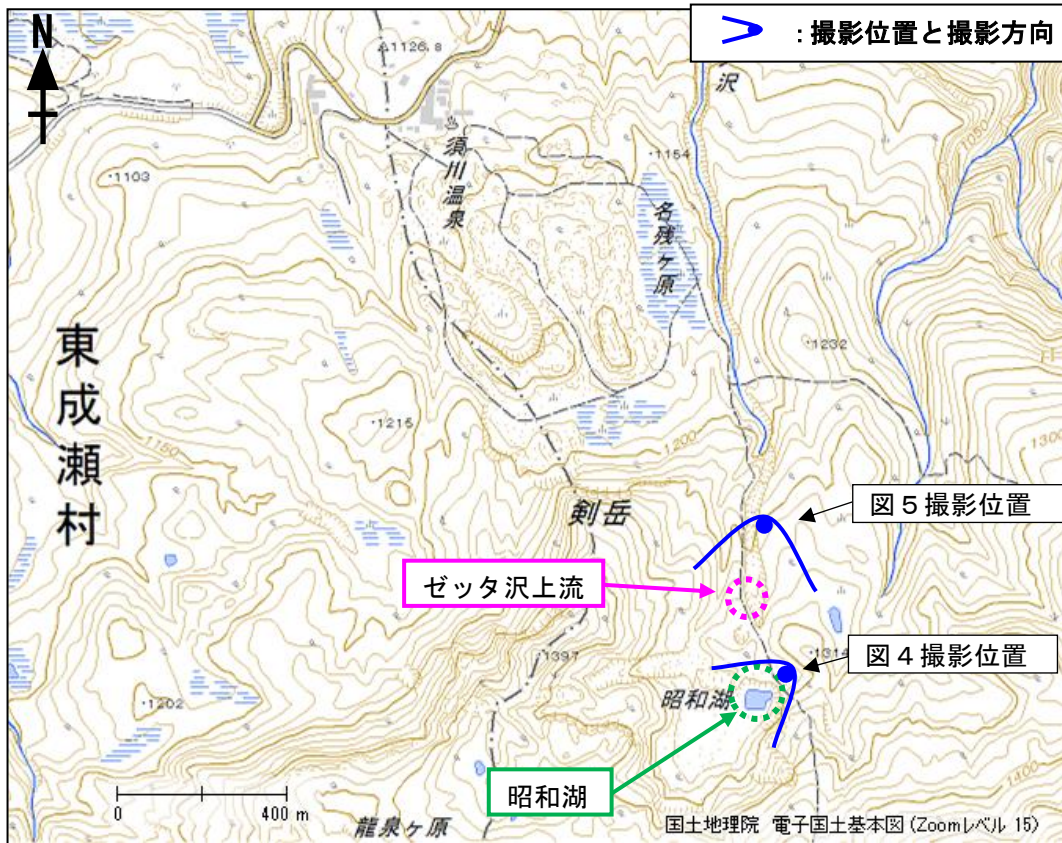


図3 栗駒山 昭和湖、ゼッタ沢上流の写真と地表面温度分布撮影位置及び撮影方向

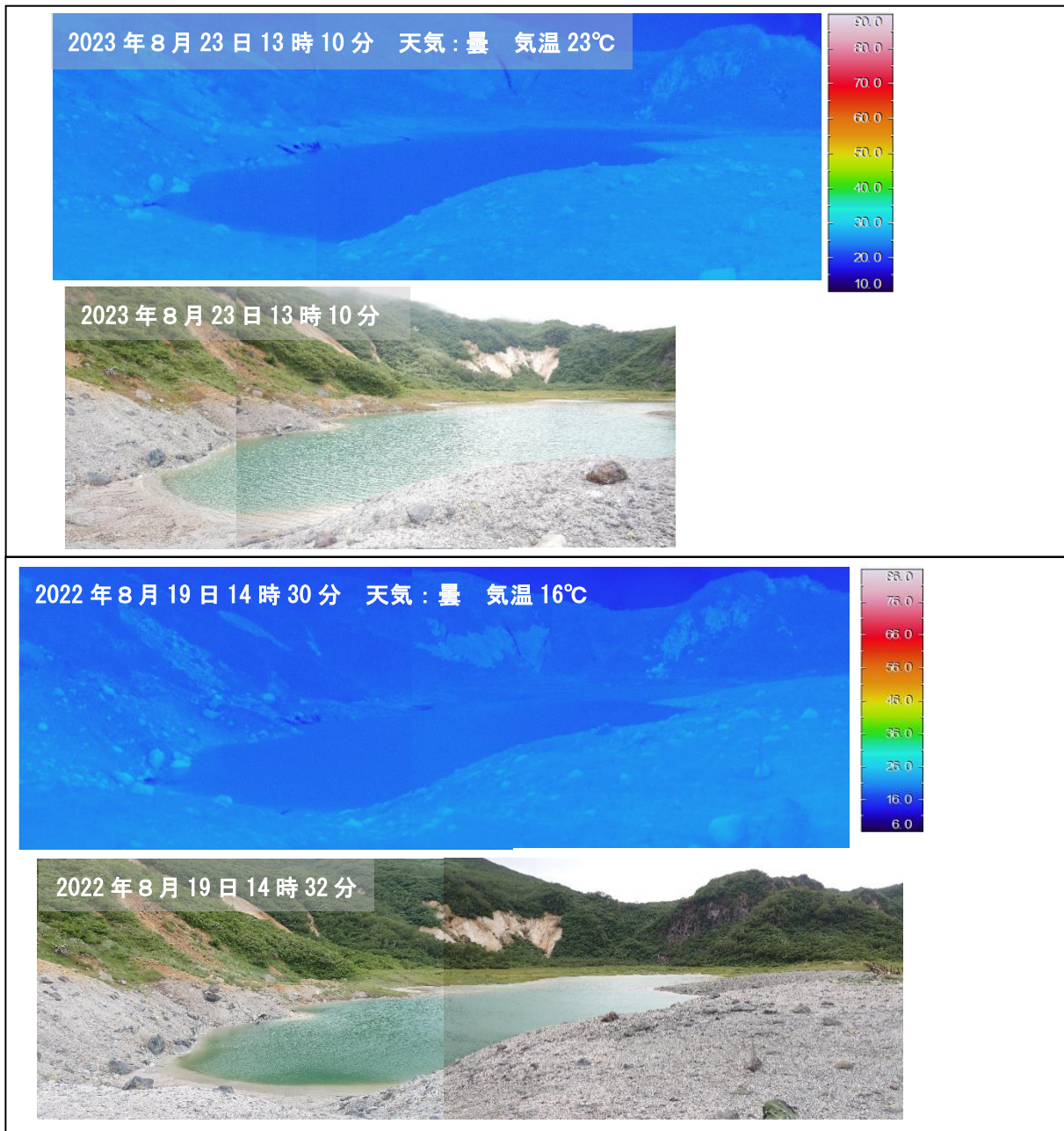


図4 栗駒山 北東から撮影した昭和湖の状況と地表面温度分布

これまでの観測と同様に昭和湖及び湖岸に地熱域は認められませんでした。昨年まで見られていた東岸での低温の噴気は認められませんでした。湖水の色には前回（2022年8月19日）から大きな変化はありませんでした。

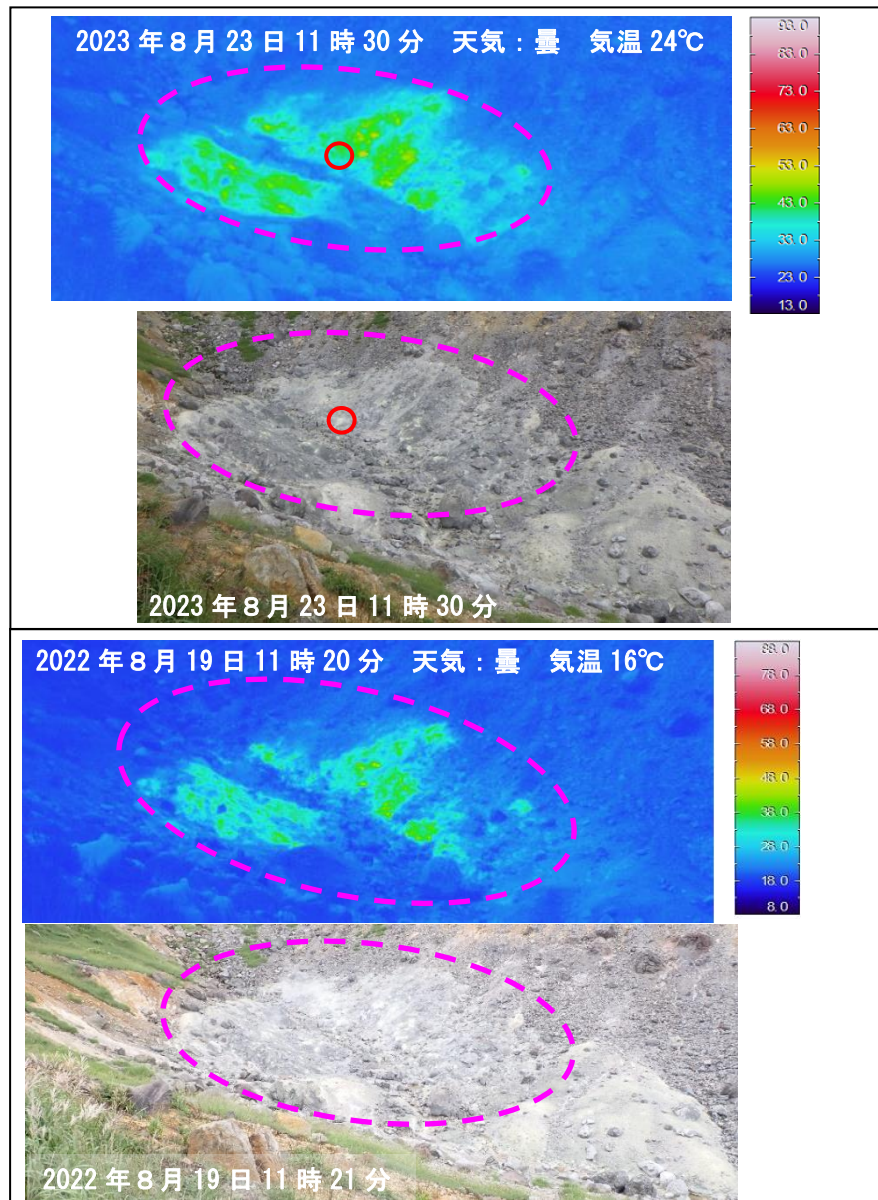


図5 栗駒山 北東から撮影したゼッタ沢上流の状況と地表面温度分布

※地熱域以外で温度の高い部分は、岩等が日射により温められたことによるものと推定されます。

地熱域（桃破線）の状況に特段の変化はみられませんでした。赤丸付近の噴気の温度は93.0℃、その他の噴気の温度も90～92℃程度で大きな変化はありませんでした。

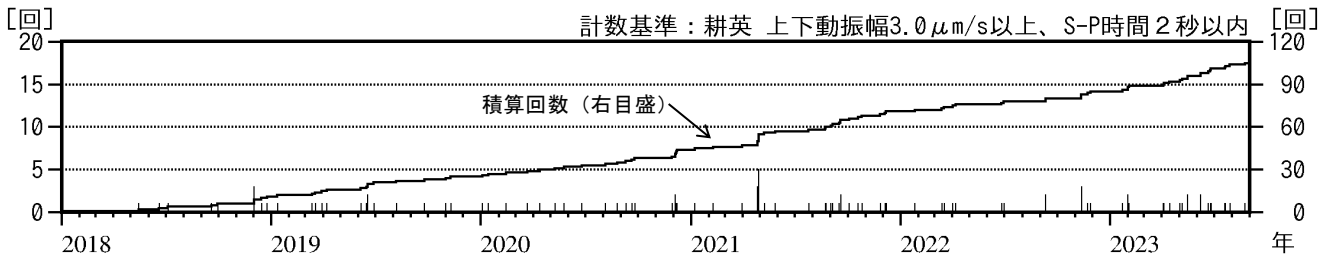


図6 栗駒山 日別地震回数（2018年1月～2023年8月）

火山性地震は少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

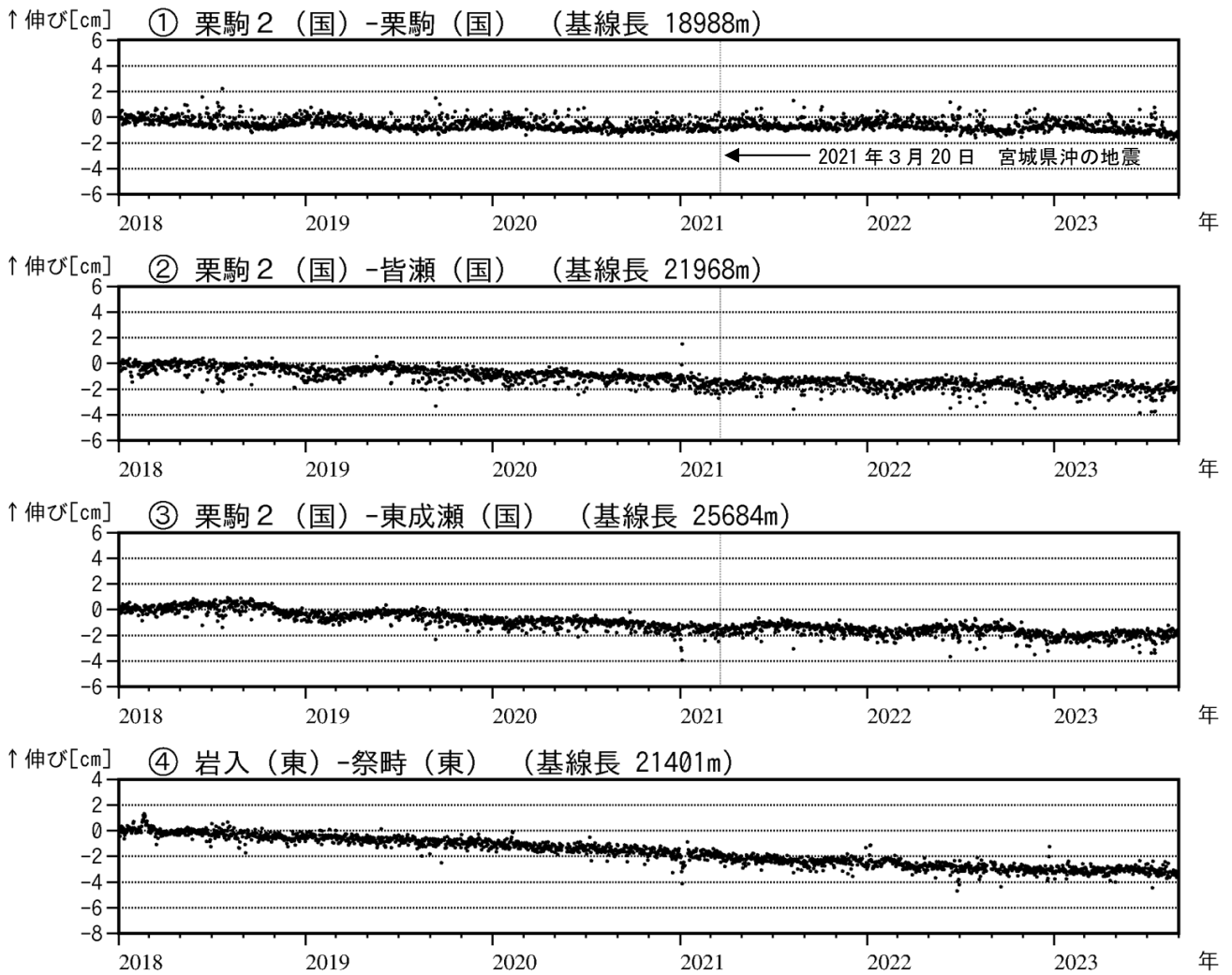


図7 栗駒山 GNSS 基線長変化図（2018年1月～2023年8月）

- ・ 2021年3月20日の宮城県沖の地震に伴うステップを補正しています。
- ・ ①～④は図9のGNSS基線①～④に対応しています。
- ・ 空白部分は欠測を示します。
- ・ (国)は国土地理院、(東)は東北大学の観測点を示します。

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

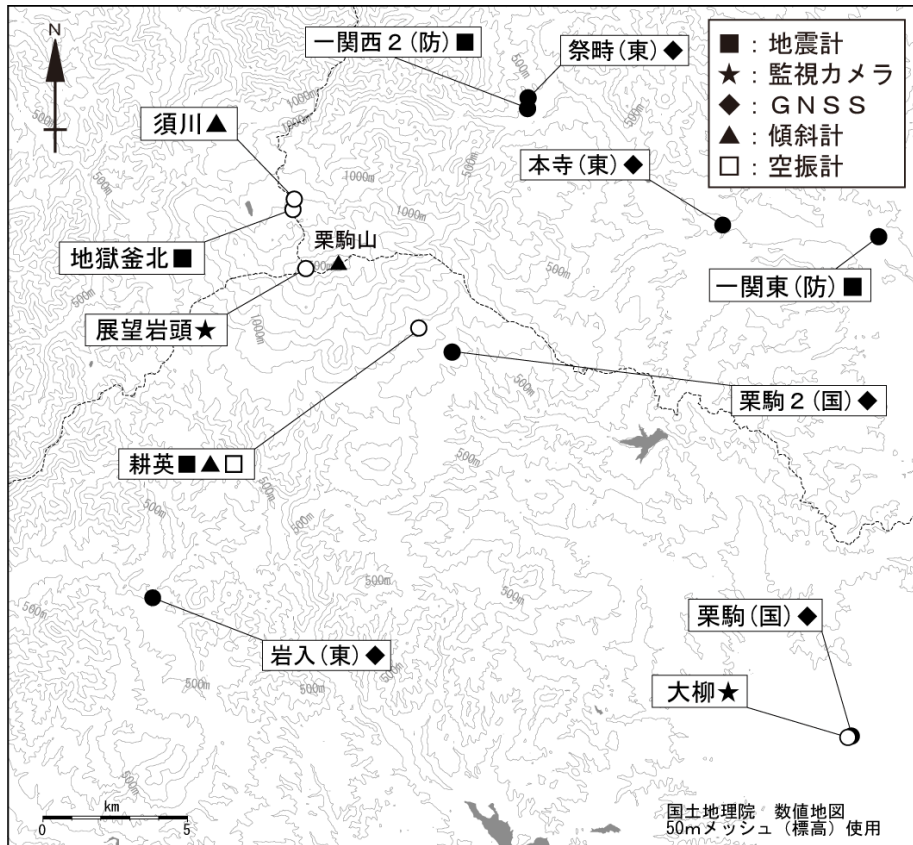


図8 栗駒山 観測点配置図

白丸(○)は気象庁、黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国)：国土地理院 (東)：東北大学 (防)：防災科学技術研究所

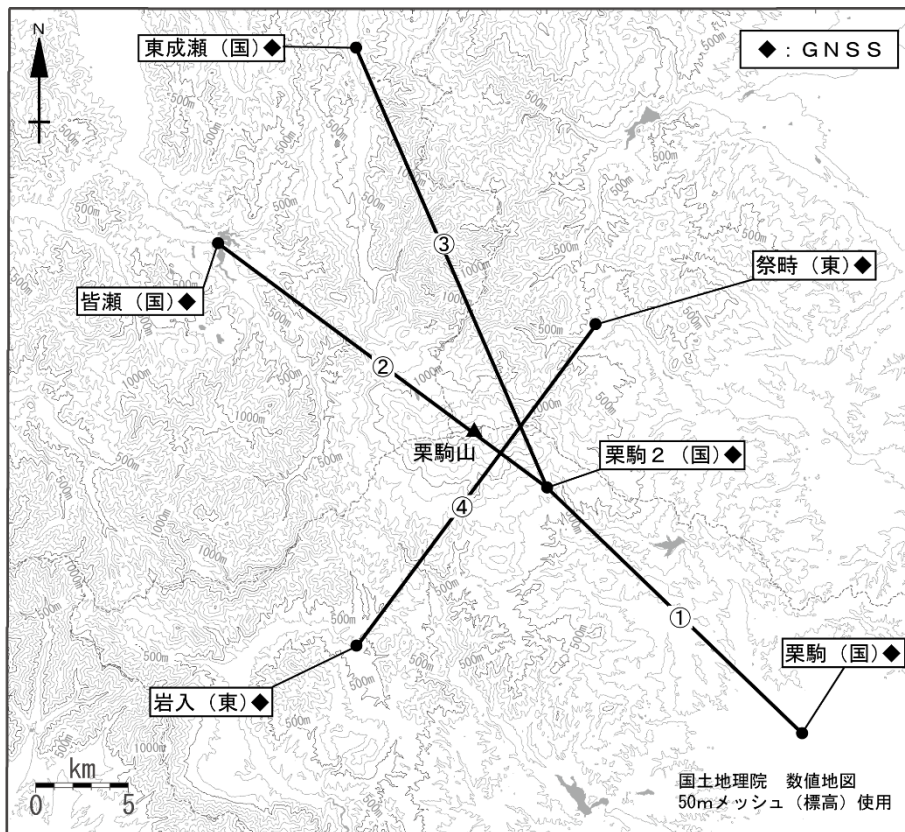


図9 栗駒山 GNSS 観測基線図

黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国)：国土地理院 (東)：東北大学